

## 編集後記

本学では、1991年の大学設置基準の大綱化を受けて、同年11月、自己点検・評価準備委員会を設置し、自己点検・評価の取り組みを検討し、1993年に自己点検・評価委員会（委員長：学長）と改称して自己点検・評価の実施体制を整備、1999年に全学的な自己点検・評価を実施し、その結果を「自己点検・評価報告書 平成11年度」にまとめ、学内外に公表した。

その後の経過については、本報告書の冒頭の「刊行にあたって」および「第15章 自己点検・評価と教育情報等の公表」に詳述されているとおりであり、自己点検・評価委員会の下で、全学的な自己点検・評価を継続的に実施してきている。

この報告書は、2012年3月に開催された自己点検・評価委員会において、2011年度（必要な場合は、過去5年まで遡る）を基準とした自己点検・評価を実施することが決定されたことを受けて、自己点検・評価実施専門委員会および同専門委員会ワーキンググループで点検・評価項目等を決め、全学的に実施した結果を取りまとめたものである。

今回の全学的な自己点検・評価の取りまとめは、1999年度の「自己点検・評価報告書 平成11年度」との対応がし易いように配慮して、15章構成とした。それぞれの章ごとに取りまとめ責任者を決め、「自己点検・評価に関わる申し合わせ事項」に基づき、執筆分担者からの原稿の最終校閲等もお願いした。各項目間或いは学部間等で記載上の整合性の取れていない点も見られようかと思われるが、各取りまとめ責任者を中心として精力的に点検評価していただいた結果を取りまとめたものである。

本報告書は、各章ごとの「評価」と「改善方策」を簡潔に取りまとめた要旨集も作成したので、その詳細な根拠なる本文と合わせて精査いただければ幸いである。

なお、本学では学内向けに「教育・研究活動に関する実態資料」を毎年度刊行しており、また、学外向けには「教育情報公表」としてWeb上で公表しているので、本報告書中には改めて資料編は設けていないが本報告書と併せてご覧いただければ幸いである。

終わりに、今回の自己点検・評価報告書をまとめるに当たり、多大なご尽力をいただいた関係者に深く感謝いたします。

中部大学自己点検・評価委員会